

## 会員の広場



### NPO法人「ACCJ」始末記

松井和明（東京）

平成十四年、若者のフリーター、ニート問題が深刻化する中、進路が見えない若者たちに「現職時代に培った経験からアドバイスができるのではないかと」、銀行で仲の良い、人事キャリアを持つ、ITに強い、などの十〇名が「NPO法人を創り取り組もう」と参

集、東京都に「キャリアアップと就業機会を促進する会（以下ACCJ）」設立を申請。形式のみの審査、優遇税制ゼロには驚かされたが、平成十六年に認可された。ACCJは主に就職希望者にキャリア・カウンセリングを行うNPO法人で十名が平等に役員に就任。まず、キャリア・カウンセリングの理論と実践スキルを証する資格「CDA」（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）を八名が取得。役員は交通費などの実費のみで営業開始。

某大学経済学部から、就職希望者のカウンセリング、金融機関希望者へのセミナーの業務委託を受けるに至り、軌道に乗った。カウンセリングは週三回、各四時間、CDA一人体制でローテーションを組み、多い日で七

八人、少ない日で三〜四人が来訪。学生の興味、能力、価値観を聴取・判断、学生とその適職をマッチングさせるものであり「傾聴」が重視されたが、積極的なアドバイスも肝要と感じられた。学生の相談は主に、「エントリーシート」（学生時代、自己分析、志望動機など）の書き方、面接の受け方、模擬面接の実施、などであったが、「自己分析」で苦

に保有した事務所も収支が合わず止む無く閉鎖した。毎月の理事会に加え、納涼会、忘年会などには、夫婦参加で懇親を深めた。こうした活動は外部からも注目を受け、平成十七年には厚生労働省の（独）高齢・障害者雇用支援機構から約二百万円の助成金を受け、平成十八年度『厚生労働白書』に高齢者の模範的な社会貢献活動として、一ページを使い写真入りで紹介された。

労する学生が多かった。セミナーでは、銀行信託、証券、生損保、リース、カードなど、金融業界についての講義を実施した。学生には好評で金融機関への就職率が格段に高まったと大学側からも高い評価を受けた。他学部への対応も要請されたが、メンバーは兼任でいろいろ取り組んでおり、体力不足で、渋谷

後期高齢者入り前後して、亡くなるメンバーが増え、平成二十九年の二名で計四名となり、体力不足と相まって寂寥感が加わり、急速に終息機運が高まった。十三年に及ぶ活動に終止符を打つことにした。解散手続きは当局も不慣れで煩雑を極め、一年余かかった。